

【東京オリンピックの聖火トーチが東中へ！】 令和3年6月28日（月）

元ラグビー日本代表の桑水流裕策選手（コカコーラ・レッドスパークス所属）が、本校にトーチを持参されました。桑水流選手は、佐賀県伊万里市で聖火ランナーとして参加され、「福岡の皆さんにもオリンピック・パラリンピックのワクワクした気持ちを伝えたい」という思いで届けられました。

8時30分に生徒会役員10名が玄関前でお迎えし、会議室で桑水流選手から全校生徒へメッセージをいただいた後、生徒会長の井上千草さんへトーチが手渡されました。メッセージは、全校生徒へ映像で紹介し、トーチは玄関前に飾りながら、日ごとに各学年の教室へ届け、実際に生徒たちに触ってもらいます。

最後は、6月30日（水）に開催する体育祭の開会式において使用させていただきます。

※ 桑水流裕策選手プロフィール

鹿児島県出身。鹿児島工業高校から福岡大学へ進学し、コカコーラ・レッドスパークスへ。大学在学時、セブンズ日本代表に初選出される。2016年にブラジルで開催されたリオデジャネイロオリンピックにキャプテンとして出場し、4位入賞を果たす。

※ 東京2020 オリンピック聖火トーチについて

〈伝統と現代技術の融合〉

日本のかたち、桜紋。

オリンピックトーチは、その伝統的な形を新幹線の製造にも使われている製造技術（アルミ押出成形）を用いて作っています。継ぎ目のない、ひとつなぎのトーチです。

〈復興への想いと持続可能性への配慮〉

トーチの素材の一部には、東日本大震災の仮設住宅のアルミ建築廃材を再利用しています（約30%）。人々の生活を見守ってきた仮設住宅が、平和のシンボルとしてオリンピックトーチに姿を変え、一歩ずつ復興に向けて進む被災地の姿を世界に伝えます。

